

日揮グループ 会社案内

Corporate Profile



JGC 日揮ホールディングス株式会社

〒220-6001 神奈川県横浜市西区みなとみらい2-3-1

TEL: 045-682-1111 <https://www.jgc.com/jp/>

Purpose

存在意義

Enhancing planetary health

「人と地球」の健康は密接に関係しており、この2つを追求していくことで、豊かな未来を創っていく」というメッセージを込めています。

Values

価値観

私たちは、共通の価値観を持って行動します。

4つのちから

挑戦

新たな領域、技術、手法に挑戦します

創造

社会と顧客のニーズに応え、価値を創造します

結集

多様な人と技術を結集します

完遂

いかなる困難も克服し、完遂します

2つの誓い

尊重

すべての人を尊重し、安全を優先します

誠実

高い倫理観を持ち、誠実に行動します

沿革

1928年の設立以来、時代の変化に対応して常に変革を推進し、持続的な成長を実現してまいりました。

1928年



日本揮発油株式会社 (現日揮ホールディングス) 設立

国内における製油所の建設・運営を目的に会社設立。

1930～50年代



エンジニアリング事業を本格化 触媒製造事業を開始

エンジニアリング事業を開始し、石油精製・石油化学プラントの建設を通じ、日本の戦後復興、高度成長を支える。1940年代からは触媒製造も開始。

1960年代



海外市場に 本格進出

南米向けの製油所建設プロジェクトを遂行。その後も中国、東南アジア、北アフリカなどへと市場を拡大し、本格的な海外進出を果たす。

1970年代



世界的エンジニアリング企業の 地位確立

資源国における石油精製・石油化学・ガス処理プロジェクトを相次いで受注。ブルネイにおいて当社初のLNGプラントを建設。環境・エネルギー分野におけるコンサルティング事業を開始。

1980年代



グローバルなプロジェクト遂行体制を確立 事業の多角化を推進

急激な円高により国内リソースの価格競争力が低下するなか、プロジェクト遂行のグローバル化を推進。ライフサイエンス分野などに進出し、ファインセラミックス事業を立ち上げる。

1990年代～2000年代



危機を克服し、世界的な資源開発の加速を 背景に業績拡大を実現

エンジニアリング業界の国際的淘汰・再編の波を乗り越える。さらに、1990年代後半には「ガスの時代」、2000年代には新興国でのエネルギー需要の拡大を背景に、中東産油国の資源開発プロジェクトに貢献。LNG分野で世界屈指の存在へ。

2010年代



事業領域を拡大 持株会社体制へ移行

シェールオイル・ガスの開発が進む北米に進出。オフショア分野や再生可能エネルギー分野などにも積極的に参画。2019年10月に複数事業で安定的かつ持続的に成長していく企業グループを目指し持株会社体制へ移行。

2020年代～



2040年ビジョンを掲げ、 脱炭素社会の実現に向け加速

2021年5月、グループのパーパス(存在意義)を“Enhancing planetary health”と再定義し、長期経営ビジョン「2040年ビジョン」を策定。人と地球の健やかな未来づくりに貢献するため、5つの事業領域に事業を多角化。

グループ経営体制

日揮ホールディングス株式会社

日揮グループは、純粋持株会社である日揮ホールディングスの傘下に

世界80社以上を擁する企業グループです。

エネルギーとインフラの分野を中心とするプラント・設備の

設計、機材調達、建設工事、メンテナンスを内容とする総合エンジニアリング事業では、

海外事業を日揮グローバル、国内事業を日揮が手掛けています。

機能材製造事業では、日揮触媒化成が触媒およびファインケミカル製品を、

日本ファインセラミックスがファインセラミックス製品の開発、製造、販売事業を手掛けています。

また、エネルギー・環境に関する幅広いコンサルティング事業を

日本エヌ・ユー・エスが手掛けています。

■ コーポレート機能業務

日揮コーポレートソリューションズ株式会社

■ 総合エンジニアリング事業

日揮グローバル株式会社 (海外事業)

エネルギーソリューションズ

サステナブルソリューションズ

ファシリティソリューションズ

日揮株式会社 (国内事業)

■ 機能材製造事業

日揮触媒化成株式会社

日本ファインセラミックス株式会社

日本エヌ・ユー・エス株式会社

その他国内外グループ会社

ビジネスモデル

総合エンジニアリング事業と機能材製造事業を中心に多様なビジネスモデルで、お客様の事業価値向上を実現します。

総合エンジニアリング事業



■ EPC (Engineering, Procurement and Construction)

EPC サービスの提供を通じて、お客様の事業活動を支える各種プラント・設備を実現します。設備投資計画のプロジェクトマネジメントコンサルティング(PMC)や、EPC サービスに先立って実施される FS (Feasibility Study: 事業化調査)、FEED (Front End Engineering and Design : 基本設計) など、お客様による施設・設備計画の初期段階から携わり、プラント完工後においても、保全サービスを提供することで、各種施設・設備のライフサイクルを通してお客様の事業価値向上に貢献しています。

プロジェクト遂行のフロー



■ プロジェクトマネジメント コンサルティング (PMC)

EPC に係る豊富な知見と実績を活かして、お客様とコントラクターの間を取り持ち、プラント・設備の実現をサポートするコンサルティングサービスを提供します。

■ 保全 (メンテナンス)

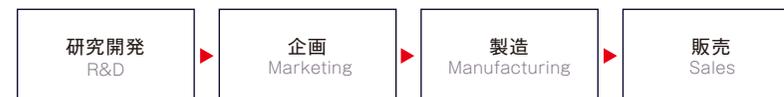
最先端のデジタル技術を活用し、様々なプラントの安全・安定操業を実現する保全サービスを提供します。

機能材製造事業



研究開発、企画、製造、販売の各活動を通じ、触媒、ファインケミカル、ファインセラミックスにおける各分野のお客様に対して多様な製品を提供し、事業価値の向上に貢献しています。

ビジネス遂行のフロー



コンサルティング、ライセンス、事業参画、プラットフォーム

環境とエネルギーの分野を中心としたコンサルティングサービスをはじめ、環境関連技術のライセンスやプラットフォームの提供、シナジーが見込める分野における事業参画など、様々なビジネスを展開しています。



グローバルネットワーク

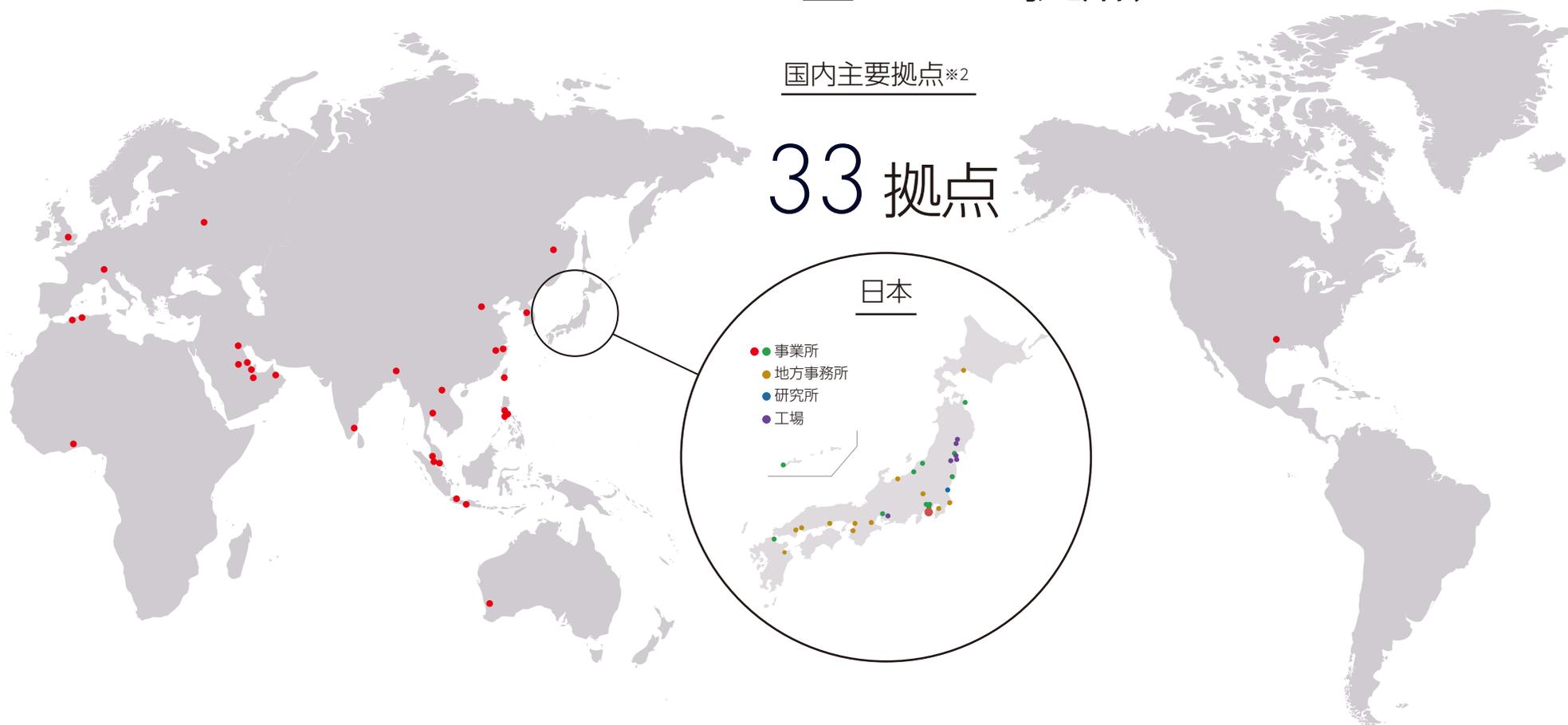
日揮グループは、創業以来90年以上にわたり築き上げてきたネットワークを駆使して、世界中のお客様の課題解決に貢献しています。

海外主要拠点※1

22 か国 32 拠点

国内主要拠点※2

33 拠点



※1 海外グループ会社、および日揮グローバルの海外事務所の所在都市にマークしています。

※2 日揮ホールディングス、および主要事業会社の本社、事業所、工場、地方事務所、研究所の所在地にマークしています。

(2024年3月末時点)

エネルギー トランジション

ネットゼロの実現に向けた化石エネルギーの低炭素化と
クリーンエネルギーの利用拡大を推進

人口増加・経済発展に伴い世界のエネルギー需要が増大する一方、気候変動問題への対応が社会的な課題となっています。日揮グループは、化石エネルギーをより低炭素な形態に移行しつつ、クリーンエネルギーの利用拡大を推進することで、“More Energy, Less Carbon”の要請に同時に応えていきます。

LNG (液化天然ガス)

LNG プラントのリーディングコントラクターとしての責任



LNG プラント (インドネシア)

LNG は低・脱炭素社会への移行を支えるトランジションエネルギーとしての役割が期待されています。これまで世界の生産量の30%以上を占める LNG プラントを設計・建設した実績を有する日揮グループは、その優れたエンジニアリング技術によって、生産量拡大だけでなく、効率性の向上やプラントの電動化、CCS^{*1} 設備などの環境負荷を低減する技術との組み合わせにより、更なる低・脱炭素化への対応も推進しています。

^{*1} CCS(Carbon dioxide Capture and Storage) : 二酸化炭素の回収・貯留

FLNG (洋上 LNG 設備)

FLNG のトップコントラクター



FLNG プラント(モザンビーク)

日揮グループは、世界でも限られたエンジニアリング会社しか手掛けることのできない FLNG (洋上 LNG 設備) の遂行実績を有し、更には FPSO (洋上石油・ガス生産貯蔵出荷設備) では、技術的難易度が高い LPG-FPSO を実現するなど世界トップクラスのプロジェクト遂行実績を有しています。これらのプロジェクトの遂行を通じて蓄積した技術・知見を基に、オフショア分野での積極的な事業展開を進めています。

LNG 受入基地

国内外の増大するエネルギー供給を支える



LNG ターミナル(日本) 提供：JX エルエヌジーサービス株式会社

日揮グループは、日本国内の受入基地建設においても、3分の1以上の設備への参画実績を有しています。近年、アジアを中心とする新興国では、急激な人口増加に伴う電力需要の増大や、経済成長に伴う都市化を背景に、LNG/LPG 受入基地の建設計画が増加しています。日揮グループは豊富な実績を活かし、これら計画を具現化し、各国のエネルギー政策の実現をサポートします。

CCS

化石エネルギー利用の環境負荷低減を実現



ガス処理プラント・CCS設備(アルジェリア)



CCS実証設備(日本)

温暖化対策の切り札として、近年、CO₂を回収し、地中に圧入・貯留するCCS^{*1}や、回収したCO₂を有効利用するCCUS^{*2}に対する期待が高まっています。日揮グループは国内のみならず、アルジェリアやオーストラリアでCCS設備を建設した実績を有します。また、CCS設備の設計・建設のみならず、CO₂分離に係る技術開発、更には事業計画段階からのソリューション提供や、カーボンクレジット創出のための事業参画にも積極的に取り組んでいます。

*1 CCS (Carbon dioxide Capture and Storage) : 二酸化炭素の回収・貯留

*2 CCUS (Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage) : 二酸化炭素の回収・有効利用・貯留

水素・燃料アンモニア

脱炭素社会実現の切り札



アンモニア合成実証試験装置(日本) 提供：福島再生可能エネルギー研究所(FREA)

日揮グループは水素の利用拡大に向けて、エネルギーキャリアであるアンモニア、有機ハイドライド^{*1}、液体水素のすべてに対応が可能です。なかでも、水素密度が高く、すでに大規模なサプライチェーンが確立しているアンモニア(NH₃)に大きな強みを持っています。現在、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)のグリーンイノベーション基金事業の一環として、旭化成(株)と共同で再生可能エネルギー由来の水素を原料とするグリーンアンモニア^{*2}などのグリーンケミカル製造プラントの実証事業を進めており、効率的・安定的な製造技術の確立を目指しています。ブルー/グリーン水素・アンモニア^{*3}製造および脱水素プロジェクトも含めて、国内外における構想段階から実装段階まで様々な案件に参画し、水素社会の実現に貢献しています。

*1 有機ハイドライド：代表的なものはメチルシクロヘキサン(MCH)。MCHは水素をトルエンと結合させたもので、常温常圧で液体であるため、水素の効率的な輸送・貯蔵が可能。

*2 グリーンアンモニア：再生可能エネルギー由来のアンモニア

*3 ブルー水素・アンモニア：化石資源由来の水素やアンモニアで、排出されるCO₂を回収・利用・貯留したもの。

原子力発電

原子力の未来を見つめる



SMR発電所の完成予想図 提供：ニュースケール社

日揮グループは、国内外で放射性廃棄物の処理・処分施設や使用済核燃料の再処理施設の設計・建設工事を数多く遂行してきました。また、その知見を活かし、海外の原子力発電所建設プロジェクトにも積極的に参画した経験を有しています。更に水素や再生可能エネルギーと並んで脱炭素社会の実現への貢献が期待できる、安全性の高い小型モジュール原子炉(SMR^{*})のEPC事業にも進出しています。

* SMR: Small Modular Reactor

太陽光発電

国内外の再生可能エネルギーの普及に貢献



太陽光発電所(ベトナム)

日揮グループは、日本で再生可能エネルギーの固定価格買取制度が導入された2012年にいち早く太陽光発電分野に参入し、これまで多数の太陽光発電所建設プロジェクトを遂行するだけでなく、発電事業者としても実績と知見を蓄積してきました。海外においても、ベトナムではグループ会社と連携し複数の大型太陽光発電所の建設実績を有するほか、モンゴル向けに蓄電システム併設型の太陽光発電設備建設プロジェクトを遂行するなど、発電のみならず、蓄電、送電を含めた最適なエネルギーマネジメントソリューションをご提案しています。

バイオマス発電

カーボンニュートラルを実現する発電方式



バイオマス発電プラント(日本)

バイオマス発電は、再生可能エネルギーの中でも、リサイクルや地域振興に繋がる発電方法として注目されています。日揮グループは、これまでに事業者とコントラクターの両方の立場からプロジェクトを実現した実績を有しており、国内外で積極的な事業展開を進めています。

洋上風力発電

次世代の再生可能エネルギーの更なる普及を目指して



今後、国内外で拡大が見込まれる洋上風力発電分野に対し、日揮グループは多数の大型プロジェクトの遂行を通して培ったEPC計画全体を最適に取りまとめるプロジェクトマネジメント力、土木・電気を中心とするエンジニアリング技術、世界規模で最適な資機材を集める調達力と、これを的確に建設地に運ぶ輸送ノウハウを活かして、洋上風力発電の普及に貢献します。

原油・ガス集積、分離、生産

上流分野の計画段階からサポート



ガス処理プラント(U.A.E.)

オイル&ガスのアップストリーム分野では、中東、北アフリカ、東南アジアで原油・ガスの集積設備、分離プラント、昇圧設備など、数多くのプロジェクトの遂行実績を有しています。また、メジャーオイルや産油・産ガス国営石油会社による資源開発プロジェクトの計画段階から積極的に参画し、開発計画の支援からプラント建設、オペレーション・メンテナンスに至るまで、総合的な提案を行うことで、投資効果の最大化とスピーディーな開発計画の実現に寄与しています。

ガス化学・石油化学・化学

より競争力のある、付加価値の高い製造基地づくり



エチレンプラント(米国)

日揮グループは、天然ガスやシェールガスを原料とするガス化学分野で、大型エタンクラッカーを中心に下流の化学プラントを含めて、中東、米国、アジアで大型プロジェクトの遂行実績を有しています。加えて、日本の化学産業の海外進出計画にも、海外グループ会社と連携してお客様の事業計画を強力にサポートしているほか、スペシャリティケミカルなど付加価値の高い製品の製造設備の実現に貢献しています。

石油精製

石油産業を取り巻く環境変化にいち早く対応



製油所(タイ)

石油精製プラントの豊富な建設実績を有する日揮グループは、石油産業を取り巻く環境変化にも迅速に対応しており、FCC・水素化分解など重質油分解装置の増強をはじめとする製油所の高度化や、世界的な環境規制の強化を背景とするガソリン・軽油のサルファーフリー化を目的とするプラントの新設・改造においても数多くの実績を誇っています。また、日本国内のケミカルリファイナリー化など、競争力強化を目的としたお客様の設備投資計画の実現をサポートしています。

ガス火力発電

世界の電力需要を支える



ガス化複合発電プラント(日本)

日揮グループは、国内外で石油、天然ガスなど多様なエネルギーを原料とする火力発電所建設プロジェクトの遂行実績を有します。また、残渣油を原料とするガス化複合発電を世界で初めて一括して設計、建設したほか、LNG受入基地のタンクから発生するボイルオフガスを利用した発電システムの開発など、新たな発電技術の開発・活用にも積極的に取り組んでいます。

資源循環

循環型社会の実現に貢献

循環型社会の構築が持続可能な社会の実現に必須となるなか、日揮グループは、廃プラスチックおよび廃繊維のケミカルリサイクル、ならびに使用済み食用油を用いた持続可能な航空燃料(SAF)の製造に取り組んでおり、循環型社会の実現に幅広く貢献しています。

SAF (持続可能な航空燃料)

国産 SAF の大規模製造や普及に貢献



持続可能な航空燃料 (SAF^{*1}) は、原料となるバイオマスや廃食油、都市ごみなどの生産・収集から、製造、燃焼までのライフサイクルで、従来の航空燃料に比べて温室効果ガスの排出量の大幅な削減が期待できるとともに、既存のインフラをそのまま活用できる航空燃料です。日揮グループは、2022年11月に国内初となる国産 SAF の大規模製造事業会社 SAFFAIRE SKY ENERGY^{*2} を設立し、2025年の製造開始を目指してプラント建設を進めている^{*3} ほか、資源循環による脱炭素化社会実現の機運醸成を目指す取り組み「Fry to Fly Project」を開始し、当該プロジェクトには127の団体が参加しています(2024年6月時点)。さまざまな企業、自治体などと連携して脱炭素社会の実現に貢献します。

^{*1} SAF : Sustainable Aviation Fuel

^{*2} コスモ石油(株)、(株)レポインターナショナルとの合弁会社

^{*3} 本事業は国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) より採択を受けた助成事業です。

ケミカルリサイクル

廃プラスチック、廃繊維のリサイクル率向上を目指す



日揮グループは、広範な廃プラスチックおよび廃繊維（ポリエステル）に対応する資源循環システムの確立に取り組んでいます。ガス化ケミカルリサイクルでは、世界で唯一の長期商業運転実績を有し、プラスチックを完全循環する EUP(Ebara Ube Process)^{*1} のライセンサー /コントラクターとして、ライセンスの供与と設備の設計・建設を行います。加えて、長期の運転実績^{*2} を有する大型商用装置をベースに、プラスチック原料となるナフサ代替油を廃プラスチックから生産する油化ケミカルリサイクルプロセスを自社開発しました。今後、ライセンスの供与を目指します。さらにポリエステルケミカルリサイクルでは、廃繊維を含むあらゆるポリエステル製品をケミカルリサイクル可能な技術と商業運転実績を持つ企業や繊維業界に幅広いネットワークを持つ企業^{*3} と連携し、ライセンスの供与を行っています。

^{*1} 荏原環境プラント(株)とUBE(株)が開発し昭和電気(株)(現(株)レゾナック・ホールディングス)が長期商業運転を実現した、廃プラスチックを酸素と蒸気による部分酸化によりガス化し、アンモニアやオレフィンなどの化学品合成に利用可能な合成ガスを生産するプロセス。

^{*2} 旧札幌プラスチックリサイクル(株)によって2000年から10年間、商用運転を実施

^{*3} 帝人(株)、伊藤忠商事(株)と共同で、ポリエステル製品をケミカルリサイクルする技術のライセンスを目的とした合併事業会社を設立

ヘルスケア・ ライフサイエンス

高度な技術で人々の健康の実現を支える

ヘルスケア分野ではデジタル技術を活用したスマートホスピタルや、新興国を中心に医療ニーズが拡大しています。ライフサイエンス分野では、低・中分子医薬品やバイオ医薬品、さらにニューモダリティへと、創薬手法の多様化・高度化が進んでいます。これらのニーズに対して、日揮グループは1970年代から国内で培った病院建設・運営や、医薬品エンジニアリングの知見を通じて対応し、世界中の人々の健康を支えています。

医薬品製造プラント

国内屈指の技術力を活かした医薬品エンジニアリング



国際製薬技術協会 (ISPE) による Facility of the Year Awards (年間優秀施設賞) の Innovation カテゴリーの Winner (最優秀賞) に選出された中外製薬 (株) 向け低・中分子合成原薬製造棟

日揮グループは、医薬分野の幅広い専門領域をカバーするエンジニアと650件超の豊富な実績を有しています。GMP対応技術をはじめ、国内屈指と評価される医薬エンジニアリング技術を駆使し、低・中分子合成原薬、バイオ原薬、核酸医薬、ワクチンを含む無菌製剤、固形製剤などの製造に資する医薬品製造工場の実現に貢献しています。加えて海外での医薬品製造工場建設に対しては、事業の初期段階からサポートし実現に貢献しています。

病院

EPC、運営の両面で人々の健康を支える



中外製薬(株)向け低・中分子合成原薬製造棟内の、高薬理活性の化合物の暴露から作業を守る次世代封じ込め技術を導入した設備



熊谷総合病院建替え工事（埼玉県）

高齢化社会の急速な進展、医療制度の改革などを背景に、将来を見据えた新たな施設づくりが求められています。日揮グループは全国各地で、経営、運営計画、計画／設計／建設、設備機器導入、情報インフラ構築、環境／防災計画、移転計画、保守管理などを一貫した思想で統合・最適化する数多くの病院・医療施設の建設プロジェクトを遂行しています。また、国内での病院PFI事業で培った病院運営ノウハウを活かし、海外においても病院経営事業に取り組んでいます。さらに、健康寿命を延ばすための「予防医療」に貢献していくことを目指して、病院・健診センターにデジタル技術を導入して医療データを収集／分析し、医療の質の向上や健康維持につなげるデジタルヘルスケア事業を展開しています。

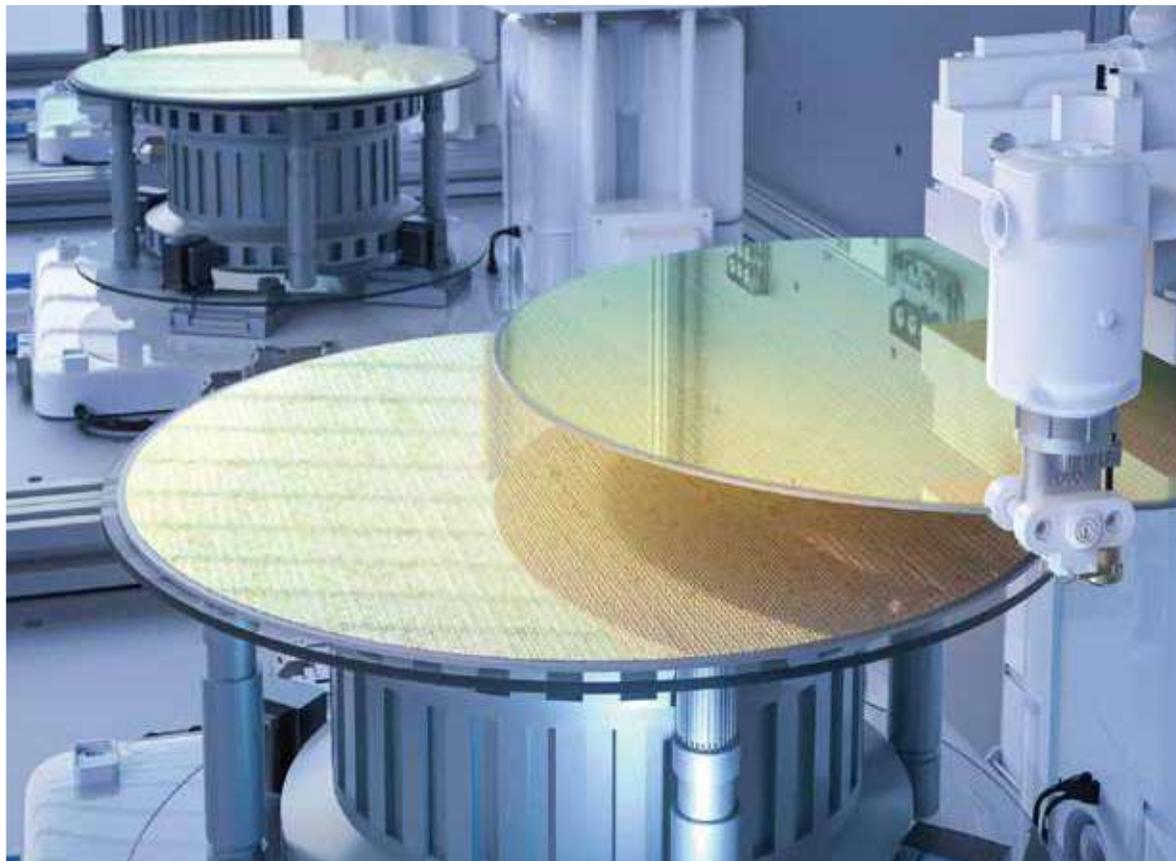
産業・都市インフラ

世界各国のさまざまなニーズに応える

デジタル社会の進展に伴い、半導体や蓄電池、データセンターなどデジタル産業を支えるインフラ施設やその周辺産業の需要が急速に高まっています。また、東南アジアをはじめとする新興国においては人口増加に伴い、電力、上下水道、鉄道などの社会インフラの需要が増大しています。日揮グループは長年に亘って培ってきたエンジニアリング技術とプロジェクトマネジメント力を駆使し、構想段階から投資計画の実現やプラント・施設の建設まで伴走することで、お客様の投資計画の特性に合ったファシリティソリューションを提供します。

先端技術産業分野

製造プロセスの特性を理解し、建屋と設備の最適統合を実現



日揮グループは、半導体製造や蓄電池の生産に関連する生産施設において、案件の基本構想・計画段階から参画し、プロジェクトを受注・遂行しています。また需要が急増しているデータセンターにおいても案件の構想から EPC 遂行までを担うエンジニアリング会社として、複合的なソリューションとプロジェクト遂行を実施します。医薬品工場などの分野で培ったエンジニアリング技術やプロジェクトマネジメント力を駆使し、建屋と設備が一体となった工場のエンジニアリングや顧客のプロセスや案件の特性に最適なソリューションをご提案し、信頼性の高い確実な工事を実現します。

スマートファクトリー

製造業の競争力向上をサポート



日揮グループは、食品・化粧品工場や物流設備、組立・加工工場などを対象に、IoT/デジタル技術やロボットの導入などの自動化技術を用いて生産性の向上を実現し、省エネルギー・環境技術の導入を通じて低・脱炭素化のニーズに応える次世代のスマート工場を提案します。建築設計、機械設計、電気設計など、幅広い設計技術を有するエンジニアリング会社ならではの強みを活かして、お客様のニーズに合わせて構想段階から提案を行い、工場の全体最適を実現します。

非鉄金属製錬

先端技術で、希少金属資源の生産拡大に貢献



電気自動車（EV）の普及などを背景に銅やニッケル、レアメタルといった非鉄金属の重要性が高まっています。日揮グループは、鉱床の低品位化、鉱石中の硫素などの不純物増加、環境負荷低減への対応として注目を浴びている湿式製錬法のプラント設計・建設においては、世界トップレベルの技術ノウハウ・実績を有しています。非鉄金属製錬プラントの建設計画に際し、事業化調査から設計、建設、試運転助成に至る一貫したサービスを提供することで、非鉄金属の供給拡大に貢献しています。

複合都市インフラ

都市インフラ機能をインテグレーション



日揮グループは、都市インフラを構成する再生可能エネルギー、ライフサイエンス、ヘルスケア、交通インフラ、上下水処理、各種工場、資源循環施設などの設計、施工、運転、保守に係る知見を活用し、複合的なインフラ開発を実現します。更に「再エネ」や「資源循環」などのソリューションを融合し、環境に適合した工業団地・都市開発などのプロジェクトマネジメントサービスを提供します。

鉄道インフラの海外展開を推進



鉄道インフラにおいては、特に複雑なサブシステムの集合体である機械・電気システムを中心とする機電パッケージに加え、車輛基地（デポ）の設計、建設に取り組んでいます。システムインテグレーションによる鉄道関連 EPC 役務の全体最適化を通じて、工期短縮・コストダウン・保守省略化を高いレベルで実現します。

環境適合性と経済性を両立した水インフラ



日揮グループは、事業計画から設計・調達・建設、維持管理までを含めた統合的な観点に立ち、プラントや製造工場、工業団地や地域開発などの複合型インフラに対して、地域・お客様の多様なニーズに合致した水インフラをご提案します。また、カーボンニュートラルの要請に寄与すべく、再生可能エネルギーとの最適統合などを含めた低・脱炭素化施策などにより、環境適合性と経済性の両立した水インフラを実現します。

機能材製造事業

高機能材

高度なモノづくり技術で世界のニーズに応える

石油精製、石油化学、環境プラント向けの各種触媒のほか、ナノ技術を活用したファイン製品、耐熱・耐食・高剛性などの特長を利用したファインセラミックス製品の開発・製造・販売事業を通じて、変化する産業ニーズに応えると共に、人々の生活の質向上・持続可能な社会の実現に貢献しています。

触媒分野

カーボンニュートラル社会の実現に貢献



石油精製触媒

FCC(流動接触分解)触媒、水素化プロセス用触媒をはじめとした石油精製プラント向けの触媒、石油化学用触媒を代表とするケミカル触媒、ならびに火力発電所などの排煙中に含まれる窒素酸化物を除去する環境触媒(脱硝触媒など)の開発・製造を行っています。近年では長年培った技術を活用してカーボンリサイクル実現に向けた合成燃料用触媒開発などカーボンニュートラル社会の実現に貢献することを目指しています。



脱硝触媒は火力発電所やごみ処理場の排煙から窒素酸化物(NOx)を除去し、環境汚染を防いでいます。

ファインケミカル分野

ナノ技術で生活の質向上に貢献



シリカや金属コロイドなどのゾル シリカゾルはフラットパネルディスプレイなどの表面反射防止膜に用いられています。

触媒製造で培ったナノ技術を活用し、情報・電子材料、光学材料、化粧品材料、コロイド(超微分子)材料など、多様なファインケミカル製品を提供しています。これらは、テレビやパソコンなどの液晶ディスプレイやフラットパネルディスプレイ、メモリーデバイス、化粧品、メガネレンズに至るまで、人々の快適な生活に欠かせない製品、およびその生産に使われており、生活の質向上に貢献しています。

ファインセラミックス分野

限りない可能性を秘めた新素材



エンジニアリングセラミックス部品

骨再生材料のリン酸八カルシウム (OCP)

日揮グループでは、エレクトロニクスセラミックスやエンジニアリングセラミックス、金属セラミックス複合材料 (MMC) など、独自の技術で半導体製造装置分野をはじめ各種先端産業の多様なニーズに応えています。また、電気自動車 (EV) などのパワーモジュール用高熱伝導窒化ケイ素基板については、従来の製造方法より優れたオンリーワン技術を用いて生産量を拡大し、脱炭素社会の実現に貢献しています。また、東北大学との共同研究により、骨の再生能力に優れ、生体吸収性が高い骨再生材料リン酸八カルシウム (OCP) の世界初の量産化に成功しました。高齢化社会の進展による需要増加を見据え、今後は OCP を原料に幅広い医薬品・医療機器製造会社と協業し、製品化を目指しています。

会社概要



社名	日揮ホールディングス株式会社
代表者	代表取締役会長 CEO 佐藤 雅之
本社所在地	〒220-6001 神奈川県横浜市西区みなとみらい2-3-1 TEL : 045-682-1111 URL : https://www.jgc.com/jp/
創立	1928年(昭和3年)10月25日
資本金	237億9,881万円(2024年3月31日現在)
従業員数	連結8,865名(2024年3月31日現在)
上場証券取引所	東証プライム市場(証券コード1963)

主要グループ会社

日揮コーポレートソリューションズ株式会社 (コーポレート機能業務)
〒220-6001
神奈川県横浜市西区みなとみらい 2-3-1
TEL : 045-682-1111

日揮グローバル株式会社
〒220-6001
神奈川県横浜市西区みなとみらい 2-3-1
TEL : 045-682-1111

日揮株式会社
〒220-6001
神奈川県横浜市西区みなとみらい 2-3-1
TEL : 045-682-1111

日揮触媒化成株式会社
〒212-0013
神奈川県川崎市幸区堀川町 580 ソリッドスクエア東館 16 階
TEL : 044-556-9120

日本ファインセラミックス株式会社
〒981-3206
宮城県仙台市泉区明通 3-10
TEL : 022-378-7825

日本エヌ・ユー・エス株式会社
〒160-0023
東京都新宿区西新宿 7-5-25 西新宿プライムスクエア 5 階
TEL : 03-5925-6710

JGC ASIA PACIFIC PTE. LTD.
80 Pasir Panjang Road #14-81, Mapletree Business City,
Singapore 117372

PT. JGC INDONESIA
Jl. TB Simatupang 7-B Jakarta 12430, Indonesia
TEL : 62-21-2997-6500

JGC PHILIPPINES, INC.
2109 Prime Street, Madrigal Business Park,
Alabang, Muntinlupa City, Philippines 1780
TEL : 63-2-876-6000

JGC Vietnam Co., Ltd.
Unit 1709, 17F, Keangnam Hanoi Landmark Tower, Lot E6 Cau Giay
New Urban Area, Me Tri Ward, Nam Tu Liem District, Hanoi, Vietnam
TEL : 84-24-3794-0520

JGC Gulf International Co., Ltd.
P.O.Box 2257, Al-Khobar 31952, Saudi Arabia
TEL : 966-13-806-9999

JGC Algeria S.p.A.
Tour CMA-CGM 2eme Etage, Quartier des Affaires Bab Ezzouar
CP16024 ALGER, ALGERIA
TEL : 213-23-92-49-59

JGC India EPC Private Limited
Building 3B - 3rd floor, Millenia Business Park, MGR Main Road
Kodandarama Nagar, Perugundi, Chennai, Tamil Nadu, 600096 India
TEL : 91-44-4065-2919